

喜寿談議

還暦・古希そして

文・写真 (株)地域サービス代表取締役

永井 英彰

中大130周年祝う式典に参列 吉野川コレクションも盛大

副学長に池高出身者

10月25日、中央大学創立130周年を祝う「ホームカミングデーが多摩キャンパス(東京都八王子市)で開かれ、徳島白門会からも西川正善会長他12人が参加した。筆者は東京神田・御茶ノ水に本校があった昭和34年に卒業し、移転先の多摩へは、125周年記念式典に初めて参加したので、5年振り2回目である。「輝く未来を創造しよう」と遠藤利明オリンピック担当大臣らが挨拶、親子三代16組の表彰があった。さらに130周年記念の論文コ



中央大の130周年記念式典



挨拶を述べた遠藤大臣(右)中央はスズキ自動車鈴木会長



池校出身の橋本副学長(右から4人目)



高速道から見た富士山



黄金伝説展(国立西洋美術館)



古代地中海世界の地図-東京新聞から



法螺貝演奏のオープニング

ンテストがあり、西川正善会長が特別賞を受賞した。副賞は5万円。筆者もかねがね母校の受験生が都心部に偏り、地方出身者が減っていることを憂へていた。多摩校舎は広大な敷地であり環境も抜群であるが、学生がアルバイトをしながら通うには余りに辺鄙だからである。11月9日、「中大は法学部を40年ぶりに都心の後楽園キャンパスに移す」とのニュースが流れた。法学部は1978年に多摩キャンパスへ移転した。法律、政治、国際企業関係法の3学部があり、1学年1370人が学ぶ同大最大の学部である。

池田高校出身の憲法学者で法学部教授である橋本基弘さんが副学長に就任されていることが判った。そこで西川会長が事務局と交渉し、昼食後にお会いできた。徳島白門会が招くという事で、先生の都合の付く時期に帰ってもらう約束ができた。

古代地中海の金製品

前日、羽田から銀座のホテルに着いた時間が早かったため、有志4人で上野・国立西洋美術館へ「黄金伝説展 古代地中海世界の秘宝」を見学に出掛けた。ブルガリアの黒海沿岸の町バルナ

で発掘された世界最古の金製品をはじめ古代ギリシャ、トリア、エトルリア、古代ローマまで約4000年にわたる金の傑作が集められている。1972年、バルナの工業地帯の建設現場で294基の集団墓地が発見され、中の1基は1・5キログラムの金製品が入れられていた。まばゆい金製品の数々に魅せられて、私たちはここを見ただけでも上京した値打ちがあったとワクワクした。黄金伝説展は来年1月11日まで。

この夜、私たちは築地・江戸銀で懇親会を開いた。牟岐通観光の配慮で2階を貸し切り、海の幸を楽しんだが、それでも飽き足らずホテルに帰ってからさらにワインを空けた。

安倍首相夫人から祝辞

11月8日、第10回吉野川コレクション「伝統の種」吉野川市」が同市で開催さ

れた。最初に高越山(こうつぎさん)を守る会の皆さんによる法螺貝の演奏があった。農文化そのものの響きに県外客は度肝を抜かれたようだ。6月に山口県長門市で開かれた「アグリアートフェスティバル2015」を取り仕切った山口県立大学・国際文化学部長の水谷由美子先生が来賓挨拶を述べ、続いて首相夫人・安倍昭恵さんのメッセージを代読した。地方創生を共に頑張ろうという力強い内容だった。「伝統の種」のトークショーはコディネーターが林博章先生(徳島剣山世界農業遺産支援協議会副会長)パネラーはNPO法人太鼓の楽校理事長の中西渉さん、美郷ほたる館館長の武田彰仁さん、ジャポニスム振興会副会長の

大谷祥子さん、それに筆者。それぞれが剣山を世界農業遺産に進める話や吉野川市美郷にも段々畑や石垣、和紙会館、種穂山などの魅力

について紹介した。

阿波の自然布一堂に

続いてアキヤマセイコさんが企画・演出した「阿波の自然布 クズと藍ファッションショー」を繰り広げた。参加者はシビックセンター染織講座生、阿波和紙会館染織生、鴨島町麻宮織グループ、阿波市G・SHIBUKOYAの皆さん。モデルは鴨島町の有志の方々。全て自分たちで織った自然布を染め、モデルたちに合わせた。朗読は四国放送の岩瀬弥栄子さん。材料はクズ、オギ、センダングサ、マツヨイグサ、ススキ、カルカヤ、シナダレスズメガヤ、カヤツリグサ、メナモミ、コエコログサ、ウツボグサ、ツユクサ、カゼグサ、ジユズダマ、オヒシバ、ツルヨシ、ブタクサ、コバンソウ、アラゲハンゴンソウ、アレシノギク、カモガヤの21種。これらからクズやコウゾ、紙布、麻の着物や帯、ストール、ポンチヨなどの作品を仕上げています。

石井からも賛助会員

その昔、アキヤマセイコさんから琉球藍を1鉢頂いた。数年前、筆者が中国雲南省・



古代布を織る実演



古代布の材料



左から3人目が時広さん、4人目が水谷先生



戦没学徒の慰霊祭

大理を訪れた際、持ち帰った原産地の少し葉が大きい琉球藍（正式名・板藍根）の木をお返しに1鉢差し上げた。アキヤマさんは数年前これを80鉢に増やした。今年、これの葉を収穫し上板町の新居製藍所でスクモにして布を浸け、10日には染めができたという。染めの風合いをまだ拝見していないが、楽しみにしている。続いて太鼓の楽校の生徒さんによる、腹に響く熱心な演奏があり、美郷の廻り踊りも披露された。「徳島剣山系の世界農業遺産を目指して」「阿波木偶」の特別展示があり、美郷ほたる館の物品販売やアキヤマセイコ自然塾作品展も同時に開催された。このイベントに参加した石井町の遠藤明生さんから、徳島剣山世界農業遺産支援協議会へ新たな賛助会員51

名の名簿が届けられた。お洒落な時広真吾 鴨島公民館運営・松島清照さんの呼び掛けにより、20人ほどが町内森山小学校脇にある新装開店の料亭「藤乃井」で打ち上げの懇親会を開いた。料亭に着くと、筆者の車と同じシエンタで4桁車番の内下桁が同じ熱海の車に目が留まりびっくりした。水谷由美子先生はタフネスだし、それぞれがユニーク。出席のオートディレクター・時広真吾さんは脚絆のようなシャツにお洒落な茶色の靴を履いていたので、筆者がそのセンスを褒めた。翌日、時広さんは野田靖之先生と会い自分が褒められたのは初めてだと、喜んでいたら

田先生に私の車を運転して自宅まで送ってもらった。自宅から野田宅までは、先生の長男に迎えに来てもらった。三木城の攻防戦 11月6日、松茂町中喜来の三木文庫で第3回講演会があり、四国大・須藤茂樹准教授が「三木城の攻防戦と別所長治」について話した。天正8（1580）年、三木家の遠祖別所長治は織田信長配下の羽柴秀吉の食糧補給断ちによって20ヶ月の籠城の末、自刃に追い込まれた。初代三木与吉郎規治の父別所甚太夫治之はその前年に戦死している。三木城合戦図絵「1〜3幅が三木文庫に所蔵されているが、これは三木市・法界寺本を模写したものである。須藤先生は以上のことを播州御征伐ノ事（群書類従）、

不思議の世界覗く 淡路島の洲本市由良町に「紫苑の山」と名付けられた標高90mの山があり、11月7日その山開きに参加した。ここに新たな聖地を作ったのは同町内で食品製造の（株）味さっこう代表取締役・魚谷佳代さん。著書「淡路ユダヤの『シオンの山』が七度目（地球大立て替え）のメイン舞台になる！」では、淡路・四国に残る古代ユダヤ人の足跡―旧約聖書の風習が今も伝わっている―など7章が書かれている。この日、国内各地から約50人が集まり、スポットを巡り、最後に戦没学徒を慰霊した。聖火を焚くと、鴛やカラスが何十羽も寄ってきて、上空を旋回したのには驚いた。